

MERIDIAN

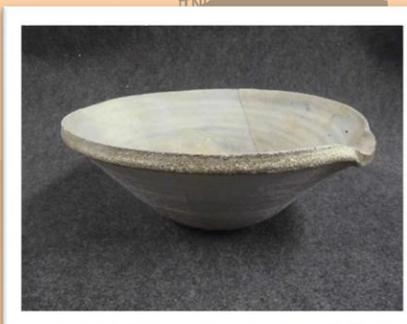
展示会通信 第63号

有瀬図書館 ギャラリー展
博物館実習I

平安京に出陣した東播磨の 焼き物たち

2022年11月13日(日)～12月2日(金)

有瀬図書館本館2階
エントランス展示コーナー



平安京に出陣した東播磨の 焼き物たち

- ❁ 神戸市西区の神出町周辺は、平安時代の終わりごろから鎌倉時代にかけて、焼き物の一大生産地でした。そこで生産された瓦や土器などは、播磨やその周辺だけでなく平安京をはじめ全国に運ばれました。神出窯から見つかった本物の土器や瓦をみることで、西区の知られざる歴史の一端をのぞいてみます。
- ❁ 本展に先立ち、博物館学芸員課程の実習生は、神戸市埋蔵文化財センターで多くの神出窯から出土した焼き物にふれました。また、兵庫県立考古博物館で関連展示を見学しました。
- ❁ 今回展示する資料は、当時の人たちの生業と生活を感じ取ることができたものを選んで紹介します。



展示資料紹介(一部)

焼き物の里 東播磨 (11~13世紀)



- 平安時代から鎌倉時代にかけて、東播磨には200以上の登り窯が築られました。ここでは須恵器という器や瓦などの焼き物を大量につくり、須恵器は全国へ、瓦は都へと運びました。

焼き物の村・神出 (かんで)



- 西区神出町の雌岡山(めっこやま)周辺は、全国有数の焼き物の産地で、平安時代の終わりごろから鎌倉時代(11世紀~13世紀)にかけての、日常の器や寺院の瓦を焼いた窯跡が約100箇所あります。

登り窯で焼く



- 須恵器や瓦は登り窯で焼いてつくります。窯は、良い粘土がとれ、燃料になる木が豊富にある場所に築られました。

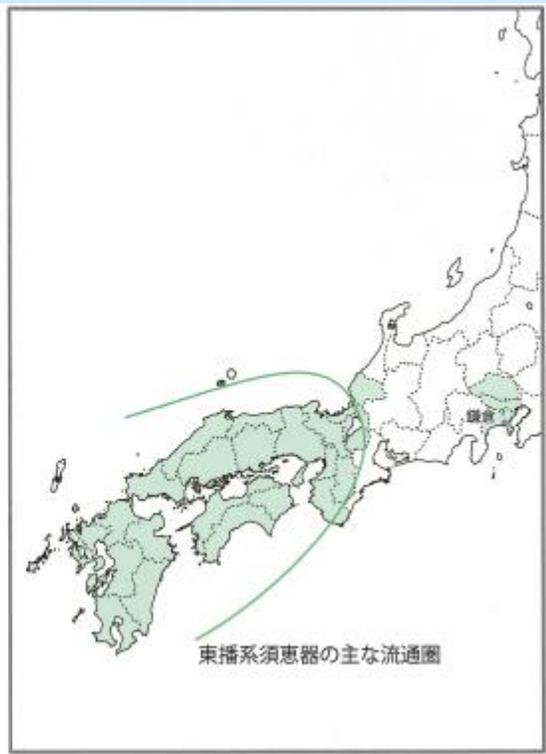
京都に運ばれた東播磨の瓦



- 東播磨の窯跡と、京都の寺で同じ模様の瓦が見つかっています。模様をよく見ると、同じ傷がついたものもあるため、同じ型でつくられたこともわかります。



東播系須恵器諸窯の位置図



東播系須恵器の流通圏（緑色は出土地）

神戸市教育委員会(2018)
 (『平成30年度秋季企画展 神戸はかつて焼き物の里だった～東播系須恵器の世界～』神戸市教育委員会文化財課)より

本誌の写真は兵庫県立考古博物館展示室で撮影

最後に、今回の展示を開催するにあたって全面的にお力添えいただいた神戸市埋蔵文化財センターのみなさま、ならびに兵庫県立考古博物館、有瀬図書館など関係各機関のみなさまに感謝の意を表します。

神戸学院大学博物館学芸員課程
 小林敬補 長谷川春佳 青田琴音 林 里奈 松本沙樹

- 神戸学院大学図書館 展示会通信MERIDIAN 第63号
 - 2022年11月13日発行
 - 発行・編集: 神戸学院大学図書館
 - 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
 - TEL:078(974)4584
 - E-mail: pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp
 - ホームページURL: <http://opac.kobegakuin.ac.jp/>